

## コロナ禍からの回復プログラムについて

令和 2 年 1 月に我が国で新型コロナウイルス感染症が拡大して以降、人々の生活様式が大きく変化し、観光行動の自粛やインバウンド客の大幅な減少により、全国的に観光産業が著しく低迷している状況にある。

国内でワクチン接種が始まり、徐々に人々の観光行動への意欲が高まり、現時点において若者主体の日帰り観光が多く見受けられるようになった。ただし、新型コロナウイルス感染症の蔓延が縮小傾向にないことから、依然として“密”を回避した行動にならざるを得ないことから、宿泊または飲食主体の観光へと二極化が進んでいる。また、屋内施設における“密”への躊躇から、屋外型娯楽施設の学習観光、基盤未整備のキャンプサイトへの集中が見受けられるようになった。

令和 2 年度に開催した犬山市観光戦略会議専門部会において、全国の先進事例などを基に、犬山市が今後新型コロナウイルス感染症の影響から回復に向けて取り組むべきことを以下のとおり整理した。

### ◆新型コロナウイルス感染症の影響からの回復に向けて配慮すべきこと

#### ①ロードマップの作成

- ▶ 段階的にどこをターゲットに何をやっていくのかを明らかにした上で取り組んでいくことが必要となる。
- ▶ ホテルμスタイル犬山エクスペリエンス、ホテルインディゴ犬山有楽苑等の宿泊施設・ジブリパーク、リニア等の開業などの機運をきちんと追いながら、徐々に観光を復興させる必要がある。

#### ②観光動向の把握

- ▶ コロナ収束後に、行き先選びの必要条件に「公衆衛生が徹底されている」というものが加わっている。
- ▶ 自然志向、分散志向、滞在志向がこれからのコンテンツの方向性として見えてきている。それらに対応した、安心安全を信頼のブランドとして見える化して提供することが極めて重要となる。
- ▶ 新型コロナウイルスの影響は、突然回復するものではなく段階的に回復するものなので、それに備えた準備が必要となる。
- ▶ オンライン化、デジタル化はどんどん進んでいく。

#### ③ターゲットの見直し

- ▶ 大きな動きの一つとして、地域側がコロナ対応を頑張るというだけではなく、コロナの影響を契機に地域側が観光行動基準を定め、来訪者にも責任ある行動を求めるという動きが出てきている。
- ▶ 段階的に新型コロナウイルスの影響から回復すると考えると、その状況に合わせてターゲットを変えながら行動していくことが必要となる。

#### ④マネジメント組織の必要性

- ▶ 観光をマネジメントする組織の有無、体制の熟度の違いでコロナ危機への対応に大きな差が出てきている。
- ▶ 地域によっては、官と民の間で情報を聞き、民間の事業者の動きを見ながらその地域にふさわしい観光衛生マネジメントを行う組織が出てきている。
- ▶ 安心・安全に見える化することが重要。

#### ⑤推進体制の構築

- ▶ 先進的な地域では、観光マネジメントを確実に実施していくための安定財源を超過課税により確保をしている。

犬山市では、新型コロナウイルス感染症が今後収束することを見据え、収束するまでの間は蔓延防止措置を図りつつ、蔓延状況に応じて、市内観光産業が回復していくために段階的プログラムを設定し、取り組んでいくこととする。

#### ◆回復プログラム

段階	取り組み内容
第1期：市内日帰り観光型	マニア・学習旅行・アウトドア（歴史・自然・環境）
第2期：市内滞在観光型	機動性のある MICE・ワーケーション（ユニークベニュー・空き家活用）
第3期：準広域観光型	熟年夫婦、子ども連れ家族向けの体験・宿泊
第4期：広域観光連携型	名古屋圏外、首都圏、インバウンド向けの広域観光連携

#### ◆回復プログラムのロードマップ

観光ターゲット		第1期	第2期	第3期	第4期
		市内日帰り観光型	市内滞在観光型	準広域観光型	広域観光連携型
年代	若い世代	学習旅行・アウトドア		体験・宿泊	
	ファミリー	学習旅行・アウトドア		体験・宿泊	
	シニア		体験・宿泊		
圏域	名古屋圏外の旅行者			広域観光連携	
	首都圏（リニアを見据え）			広域観光連携	
	インバウンド			広域観光連携	
目的	名古屋へ来訪するビジネス客		MICE・ワーケーション		
	特定の目的がある旅行者（SIT）	学習旅行・アウトドア		体験・宿泊	
	レスポンシブルツーリスト（責任ある旅行者）			体験・宿泊	